

3月の生活表

2023年 3月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：信じて進む

保育日数（20日）

月目標：＜3歳＞

- ・いつもイエス様が共にいてくださることを信じて新しい生活に希望を持つ。
- ・互いにありのままの姿を出し合い、受け止め合いながら心ゆくまで遊ぶ。
- ・球根の花の芽や花の匂い、暖かな日差しなど、春の訪れを感じ喜ぶ。

（保）成長させてくださった神様に感謝し、委ねて祈るとともに1年間の保育を省察する。

：＜4・5歳児＞

- ・神様のくださった世界は良いもので満たされているという希望を持つ。
- ・神様・イエス様がいつもどこでも一緒にいてくださるという安心感を持つ。
- ・自分の思いが生かされることと、友だちとの交わりに満たされることが、喜びとなって、次の年度へと歩み出していく。

（保）子どもたちの育ちを神様に感謝し、これからもイエス様とともに歩んでいけるように、信頼と願いを持って委ねて祈る。次年度への連携を大切にする。

2月も去っていきます。雪降る回数が多かった今冬も、漸く三寒四温にある「春」を少しずつ迎えたように思います。それぞれが春を感じながらお子さんの今までの成長に心を留めて感謝し、新しいステージでの新しい出会いと経験へ、更にはそれぞれがこれからの未来に向けて歩みを強め、穏やかな日々が送れるようお祈り致しましょう。

今年度も保護者の皆様にはご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。年度最後の「生活表」の配布となりました。今年度は、ご参観頂く制限を漸く無くせたことが大きなあゆみとなったように思います。今、大きな節目を迎えようとしている子どもたち、保護者の皆様はドキドキ・ワクワク・ソワソワでしょうか。子どもたちはみんな成長しました。大方の時をコロナで過ごした緑組。入園する前から生まれた時からマスクの赤・花組。今やマスクもカラフルになり、人の顔を隠すのが当たり前として用いられる様になりました。子どもたちがマスクを外すことはとても嬉しい大切なことです。でも、若い世代では隠すことでの化粧法の変化、外した顔を見られたくないという不思議な感覚をもつ様になったとか。どうしてそんなことになるのでしょうか。自分の気持ちを人に伝えたい時に顔全部で表現した方が良いのに。その人の思いが全部伝えられるのだと思います。そして何より満面の笑顔で笑い合う、そんなことができないって何て不幸なのでしょう。今こうして新しいステージに向かう子どもたちには満面の笑顔で笑い合えることで幸せを感じて欲しいのです。マスクとは無関係の困難にある世界中の子どもたちにも。キリスト教では、多様性が当たり前の考え方。「寄せて」と言葉を交わす時、仲間であるなしに関わらず、笑顔でお互いを受け入れていける表情が必要なのです。お友だちと共に在ることは喜びであり、安心であり、嬉しさであり、幸せなのです。5校に入学する緑組も進級する子どもたちも、神様がくださった春の光の下で、Happyになる笑顔を絶やさず、土筆のように、メダカのように、雲雀のようにそしてスマイルのようにイエスの子どもとして正しく歩んで欲しいと願います。神様、どうぞ子どもたちを保護者の方々をお導きお守り下さい。ご卒園・ご進級おめでとうございます。

《チャレンジャー》

＜月聖句＞光の子として歩みなさい。（エフェソの信徒への手紙 5：8）

私たちの幼稚園では、毎年、3月の主題聖句は同じ言葉を用います。この言葉は、幼稚園から子どもたちへの、言葉のプレゼントです。幼稚園を卒園し、小学校へと巣立って行く緑組さん、本当に大きくなりました。またそれぞれ一学年ずつ大きくなる子どもたちも、しっかりしてきました。子どもたちを見ていると、ひとりひとり、本当に「光の子」です。

今は本当に、光が見えにくい時代になってしまいました。新型コロナウイルスによる感染症も、ロシアによる隣国ウクライナへの軍事侵攻にしても、ほんの少し前には想像もしなかった出来事でした。「21世紀のこの世の中で、こんなことが起きるなんて」と、未だに戸惑い、受け止めきれていないのが、私たちの正直な気持ちだと思います。こんな状況の世界の中に、子どもたちを送り出すのは、正直なところ、心配です。それだけに、一生懸命お祈りします。神様が子どもたちを守ってくださるように、子どもたちが困難にくじけず、乗り越えていくように、心からお祈りします。

今月の主題聖句も、作者であるパウロが、エフェソにある教会の信徒を、とても心配しながら書いた書簡です。迫害や分裂など、「内憂外患」の状態の中にいる人々のために、「あなた方は、神様の光をいっぱいに浴びた、光の子なんだよ。神様のお守りが一杯あるんだよ」と、励まし、力づけるために書かれました。この時パウロは、信仰の故に投獄されていました。自分の苦しみよりも、人々への心配が優って、一生懸命お祈りし、励ましていたのです。これからの歩みは、決して楽ではありません。けれどもきっと、大丈夫です。私たちの愛する光の子たちは、しっかり歩んでくれることでしょう。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆進級・入学を迎えるに当たり、基本的生活習慣の見直しをしましょう。基本的生活習慣は、学習をする上でとても大切な日々の営み（生活）になります。

- ・家族でこの一年を振り返り、様々な方への感謝と神様への感謝の祈りを捧げてみましょう。
- ・春休み中に生活時間がルーズにならないように、できるだけ規則正しく行い、次のステップへの準備をしましょう。

☆季節を問わず流行する様々な病気への罹患を防ぐために、起床時間・就寝時間・食事・運動・手洗い、うがい・・・を施行し、また整えましょう。

☆物を大切にしましょう。

- ・進級・入学に際し、再度自分の持ち物を確認し、整理整頓をしてみましょう。
- ・緑組は、ランドセルに詰める練習もしてみましょう＝自分の責任であることの自覚

☆春の訪れを感じながら、自然の変化を全身で受け止めてみましょう。

- ・戸外で遊ぶことにより、五感を駆使してみましょう。（目・鼻・手・耳・口）
そして、心で感じたことも、言葉を使って自分の思いを表現してみましょう。

☆交通安全を心がけましょう。

- ・春休み中も交通事故・怪我等に万全の注意を払いましょう。
- ・子どもさんとは手を繋いで歩きましょう。また、親子で自転車での外出をされる時は、必ず子どもを先に行かせましょう。（後ろに目は無く子どもを守れません。）

<クラス便り：各担任より>

<花組>

「春はまだまだとおいこと〜♪」劇ごっこの最後の歌に選んだ『冬ごもり』の歌に、もう少し春が来るまでに時間が欲しいなあ〜花組さんとまだまだ二階の保育室で楽しく遊んで可愛い姿を見ていたいのになあ〜という思いを重ねて聴いていました。

【春の集い】では、歌・劇ごっこ・リズムバンド、最初のご挨拶。と花組さんにもしかりと役割があり、誰がどのお役になるのか。どのお役がやりたいのか。随分前から子どもたちと話をしてゆきました。リズムバンドの楽器はやってみたいものを全員が全てやってみました。歌は、「どのお歌が歌いたいかな？」とみんなで好きな歌を出し合い決めました。そんな中で「一人で歌ってみたい人いるかな？」と手を挙げて、歌ってみ

たいお友だちみんなが歌ってみて...そこで、みんなで「〇〇くん上手！！凄いね！」とお友だちの持っている素晴らしいものに感心して拍手！「では歌ってもらおうか！」と決めていきました。ご挨拶や劇ごっこの説明は、「難しいからやめときます〜」「無理〜！！」というお友だちもある中、やる気を出して立候補してくれたお友だちから決めてゆきましたが、練習を重ねてゆく中で「やっぱり一人で言うのんいやや...」という不安も出てきて、その時はまたみんなで話し合い、「誰か一緒にやってあげようかな？と思うお友だちいるかな？」とみんなで考えて説明の順番を変えてくれたお友だちもいました。劇ごっこでのお言葉（台詞）も普段はお喋りだけお客様の前ではドキドキするからやりたくない（言いたくない）のお友だちはどうしたらいいかな？では、こんなお言葉だったどう？同じお言葉を繰り返すとか...「うん！だいじょうぶ！！（それなら）」と決めたら笑顔で出てきてくれるようになりました。大太鼓や指揮者さん等、やりたいお役が叶わなかったお友だちもいましたが、練習を積み重ねてゆき一生懸命に取り組むお友だちの姿に、「上手にならったな〜」と難しいお役に挑むお友だちの頑張りを認める姿も見られました。そして、合同練習が始まると、緑組さんの劇ごっこに圧倒され「凄い！」と刺激を受け、「面白い！」と【春の集い】が楽しみになりました。お友だちのお休みが続き練習が思うように出来ない時はお友だちの分まで一生懸命に取り組みました。ご披露した歌・劇ごっこ・リズムバンド、時間にして数分ではありますが、その中に子どもたちの色々な思いと頑張り、『今だから出来たこと』が詰まっていました。もちろん緊張して普段より力が発揮出来なかった...何ていう思いもありますが、それが今の子どもたちのありのままの姿です。緊張する・きちんとやらないと！お客様に見られている...、というのは、頑張ってきたからこそ感じる感情です。それは子どもたちにとっては「花組さんだから、可愛いから出来なくても大丈夫」では決してないということ、真剣ということです。そして、【春の集い】を終えて、ご家族や先生から沢山褒めてもらい、自分の頑張りを実感して、その経験がより確かなものになり、子どもたちの糧となり、これから進級する力になっていってくれると確信しています。

さて、いよいよ最後に迎えるのは【卒園式】です。優しい大好きな緑組さんとのお別れの時が一日一日と迫ってきました。もちろん、それと同時に花組さんも進級し、二階の保育室から巣立ちます。ホールへと空間が変わるだけでなく、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化します。今年度の花組さんは一年間で3人のお友だちとのお別れがあり、海外からの一人のお友だちの短期入園。そして、時期は異なりますが、新たに4人のお友だちを年度途中でお迎えしました。最初から最後までそんなクラスでお友だちを送り・迎えた7人のお友だちは様々な思いを抱きながらも、しっかりとその変化と現状を受け入れて、変わらぬ園生活を過ごし守ってくれていました。それは保護者の皆様も同様です。また、この一年間、withコロナとは？と手探りの園生活にあり、保護者の皆様には、ご理解いただきご協力いただくことの連続でした。至らぬ点多々ありました。しかし、どんな時も子どもたちを愛して最優先にさせていただき、幼稚園と共に二人三脚で園生活をお支えいただきましたこと、心より御礼申し上げます。ご家族からの溢

れんばかりの愛情に包まれたマリアの子どもたちは、本当に幸せだと思います。世界中の子どもたちがこうであって欲しい、と願うばかりです。

11人の愛おしい子どもたち。4月からの新しい環境でもきっと新しいことに瞳を輝かせ、心を動かしながら色んなことに挑戦し、笑顔の絶えない毎日になることを願います。そして子どもたちの力を信じています。大丈夫だよ！と太鼓判を押して赤組・本花に送り出します！

皆様の上に神様の豊かな祝福がありますことを心よりお祈り申し上げます。

心より感謝を込めて。少し早いですが...ご進級おめでとうございます！

<赤組>

「先生見て～！また雪が降ってるよ～！！」と声を上げる子どもたち。今年は本当に沢山の雪が降り積もり、この季節でしか味わえない雪を堪能できました。嬉しそうに遊ぶ子ども達の明るい笑顔には、眩しい光が降り注いでいます。寒さの中に光を見つけ、光の中に希望の春が見えてきました。

そんな春を迎える前に幼稚園では1年の締めくくり、赤組が「おしまい」の3月でもあります。一年を思い起こしてみますと、本当に早いものです。ピカピカの赤組バッチをつけて進級したことに心弾ませながら1階の赤組保育室へやってきた子どもたち。新しい環境に期待と緊張と不安の入り混じった顔でいっぱいでした。最初は広いホールをジューっと見ていたり、楽しそうな遊びを見つけたけれど「いれて！」と言う勇気が出ずにしばらく側で見ていたりする子もいましたが、そんな時「遊ぶ？」と気がついて声をかけてくれた緑組さんやお友だちがいてくれたから一歩勇気を出して「いれて！」と一緒に遊ぶようになれました。一年の中で海外に行かれたお友だち、反対に海外からの短期入園で出会ったお友だち、そして2学期になって赤組に新しいお友だちも増え、出会いと別れを経験した子どもたち。お友だちが日本だけでなく世界にいるという感覚、また会いたいと思う人がいてそのお友だちのことも思ってお祈りもできる、素敵なことだなと思います。赤組という同年齢のお友だちだけではなく、大きなホールで異年齢のひとつ大きいお兄さんお姉さんの緑組と一緒に過ごす合同保育が始まり、緑組の活動に圧倒されつつ「すごい！」と感心したり「私たちも！」と一緒に頑張ってみたり、、、赤組生活を楽しみ毎日元気に過ごしました。周りで起こっていることをよく観察し、沢山のことを感じて考えてきた賢いみんな。だからこそ言葉にしてもっと積極的になってくれたらなと思い、分級時で一人ずつの発表の場を設け、それに対して質問するなど対話の機会をもちました。ホールではさらに正しい答えを求めすぎて頭で考え込み黙ってしまうこともありましたが、自分の思いを言葉にし、それを受け止めてもらう経験をして今では「それは〇〇じゃん！」と突っ込んだりするくらい自然体で過ごせるようになりました。また、自分のことで一生懸命だった子どもたちですが、日々の色々な経験を経て友だちに目を向けるようにもなりました。お互いに意識をし合い、負けないぞ！と密かに刺激し高め合っていました。それぞれの内なる思いをさらけ出して本音でぶつか

りあって欲しい、相手の色々な気持ちを知って欲しいと願い、今回の協同制作にも繋がりました。自分と違う思いがあることを知り、思いのぶつかり合いによって社会性が芽生え、育ってきたことと思います。赤組の集大成としての「春のつどい」に向けても前向きに参加し、楽しんで素晴らしいものにしてくれました。これまで様々な行事に取り組み、子どもたちは個々の壁を乗り越えたり、クラスのまとまりがより強い絆になってきたように思います。

今ここにいる赤組を目の前にすると一年で心も体も「おおきくなったなあ」としみじみ思います。幼稚園時代を通して年中は成長が見えにくい学年と言われていますが、確実に成長している子どもたちです。その成長があつてこそ緑組になる準備が出来るというものです。「4月になったら緑組さんになるんだから」と何事にも前向きに頑張っている子どもたち。時には「大丈夫かな？」と不安の中にいるお友だちもいるかもしれません。その時には「大丈夫だよ！！」と背中を押してあげたいと思います。

「春のつどい」の最後の挨拶にありました「私たちは神様やみんなに守られてこんなに大きくなりました」その言葉通り、神様のお見守りの下、お家の皆様のお見守りの下、成長してきた赤組さん！これからも周りの人々に「ありがとう」と感謝の心を忘れずに成長していってくれることを願い、お祈りしています。

最後になりましたが、一年間、行き届かず至らぬ点多々あったと思いますが、保護者の方々には温かく見守りご協力下さったこと、心よりお礼申し上げます。笑顔いっぱい可愛い大好きな赤組さんと過ごせた一年間、本当にありがとうございました。

ご進級おめでとうございます。

<緑組>

陽の光が明るく、温かく感じられるようになった2月。園庭を眺めながら「先生、また屋上でランチしたいねえ」と話しかけてきました。「ほんとやねえ。もうちょっとあったかくなったら屋上に行けるかなあ」と。毎年3学期の卒園前になると「卒園までにやっておきたいこと色々」を各々で決めて楽しむ時間を設けています。数年前にも、普段はお喋りが控え目で恥ずかしがり屋の男の子が「屋上でお昼ご飯を食べたい」と提案したことがありました。みんなで一人一台カラーブロックを屋上までもってあがり、まだ空気の冷たさを感じながら3月の屋上で子どもたちとお昼を囲んだことを思い出しました。普段と違う環境で頂くお昼の時間が、子どもたちにとっては楽しい思い出のひとつとなっているのですね。今年は、どんな思いをもって子どもたちは「卒園までにしたいこと」を選ぶのかな…。

一人一人の幼稚園での大切な思い出を心に刻んで、小学校へと巣立って行ってほしいと思います。入園式翌日から2か月間の休園。その間、家で園生活を楽しみにしながら、配信していたYouTubeをご覧いただいたこともありました。園行事は殆どが縮小版。お家の方をお招きすることもままなりませんでした。参観日、お誕生日会も形が変わりました。大文字登山も全員で登れたのは緑組になってからでした。元の形にもどってきたのが漸く「今年」になってからなのです。そんな毎日の中で、子どもたちの園生活をど

う守り、育ち合える環境を維持できるか...私たち自身も葛藤しながら改めて、自園の教育方針、方法、これからの方向性について向き合うことになりました。また、それらの判断を保護者の皆様にご理解いただき、後押ししてくださったことで、どんな形であっても子どもたちにとって「幼稚園が楽しい生活の場」として維持できたことに、心から御礼申し上げます。先日の「春の集い」の子どもたちの姿に、多くの皆様から子どもたちの成長した姿に「素晴らしかった」とお言葉を頂戴しました。緑組の子どもたちにだけでなく「花組さん、すごいですね！！自分たちで劇ができるのですね」「それぞれのクラスの成長を見ることができました」とお声かけくださいました。人数は確かに少ないアットホームな幼稚園です。でも、他のクラスの子どもたちの成長と一緒に喜び、楽しんでくださるお家の方々とともに、園生活を守ることができたことは本当に幸いです。小学校へ行くと、なかなかそうした機会も持ちにくい場面があるでしょう。子どもたちもその変化の中で戸惑うことがあるのも容易に想像できます。でも、何事にも冷静で観察能力が高い、真面目な9人は、各々の在り方を自分で考え判断する力を身に付けています。ちょっぴり不安な気持ちに揺れることもあるでしょう。そうであっても自分の想いはどこにあるのか、その気持ちを他者と共有しあえる「言葉」を大切に、育ち合ってほしいと願っています。

☆子どもたちとのキラキラの思い出をたくさんありがとうございました

お家の皆様とのキラキラの思い出をありがとうございました☆

楽しかったです。面白かったです。でも...やっぱり寂しいです。

ご卒園おめでとうございます。

これからも子どもたちと皆様に神様の御恵みが豊かにありますようにお祈りしています。